



職員紹介

#1

- 番外編 -

かつらぎ

八野 章(神主)

当事業団のかつらぎには神主の資格(明階)をお持ちの職員がいます。八野章さんはご実家が神社ということもあり、神職資格課程を有する大学を卒業されて明階を取得されました。現在も宮司として月に数回は御祈禱などを執り行われていたり、お祭りの時期は忙しかったりと神職の活動をされています。当事業団でも、老木を伐採するときや体育館等の建物撤去時に「解体清祓(かいたいきよばらい)」を依頼しました。神様との通訳(中をとる)をモットーに一期一会を大切にしながら神職と福祉を両立されています。

イベント情報

茨木市

障害福祉センターハートフル

イベント名

ジャンベ!アフリカンライブ

日 程

8月27日(土)、10月29日(土)
13:30~14:30

定 員

20名 先着

場 所

ハートフル4階 大会議室
(大阪府茨木市片桐町4番26号)

イベント名

手作り講座

日 程

9月17日(土)、11月26日(土)
13:30~15:00

定 員

10名 抽選(障がい者優先)

場 所

ハートフル3階 交流室
(大阪府茨木市片桐町4番26号)

問い合わせ

072-620-9818 担当 山本まで
それぞれ月始めの2日~募集を開始します。手作り講座の内容は未定です。
材料費が必要です。詳しくはハートフルまで。

採用情報

採用 HP / SNS

[採用HP]

職員募集の案内のほか、
オンライン説明会・サロン等の
採用に関する情報はコチラ!

https://www.sfj-osaka.net/saiyou/

[採用SNS]

採用に関する情報を
リアルタイムで発信!
ご登録をお願いします。

twitter

採用アカウント

@sfj_recruit

LINE

公式アカウント

@565nximz



編集後記

令和4年度が始まってから早4か月が経ちました。4月1日には、新たに40名の正規職員が当事業団の一員として加わり、各々配属された所属において歓迎と期待に応えながら日々の業務に尽力しています。

さて、今号では、「職員紹介」と題して入職3年目から37年目の職員に行ったインタビュー内容を記事にしました。今回紹介できたのはほんの一部の職員に過ぎませんが、幅広い年代の職員が、それぞれの経験や立場で悩みながらも楽しみ、奮闘する姿を通して、法人の今、そして歴史について、少しでもみなさんに感じ取っていただければうれしい限りです。



社会福祉法人

大阪府障害者福祉事業団

SFJ事業団

【法人事務局】

TEL 0721-34-2180

FAX 0721-34-2121

ホームページアドレス

https://www.sfj-osaka.net



大阪府障害者福祉事業団機関紙

かななび

[法人理念]ともに生きる心を育み ともに歩む社会の実現

コロナに打ち勝つ!!

2022年(令和4年)
8月1日発行

vol.173

ここから読む

辻一はじめ(仮称)さんは30代の頃、もみのき寮に入所した

昼間は農業や動物の飼育に精を出す

50代の頃、少しずつ作業をするのが難しくなってきた

60代の頃、車いすを使うようになった

人は誰も年をとり、身体機能や認知機能が低下していく。

加齢に伴い要支援や要介護状態になった人のために、介護保険のサービスがある。

ただ、知的障がい者の高齢化対応には、介護のスキルのみならず、特有の専門性が求められることが多い。

当事業団では、1975(昭和50)年頃から知的障がい者の高齢化を課題として認識し、ケース研究と様々な実践をおこなってきた。

大阪府立金剛コロニーでは急速な高齢化への対応が求められたため…

長年にわたり培ってきた高齢知的障がい者支援の専門性を活かし、

知的障がい者に配慮した特別養護老人ホーム「かななびのさと」を2008(平成20)年に開設。

一方、

入所施設から地域のグループホームに移行した利用者も高齢化が進み、地域での生活を継続するのが困難な方が増えてきた。

高川 雅彦(仮称)さんは20代の頃、けやき寮に入所した

40代の頃、グループホームに移行

60代の頃、マンションでのトイレや入浴が難しくなってきた

高齢期の知的障がい者に適切なサービスを提供するため、

職員紹介

『はじめてづくしを楽しんで』

明光ワークス

石津 靖浩(所長代理 1 年目 入職19年目)

はじめての立場、はじめての土地、はじめての定期券。自分にとっての「はじめて」に囲まれ戸惑いながらも、まずは自分自身がこの新しい環境を楽しまなくてはと臨んでいます。

また、気づけば現場で経験を積んだ時間よりも、現場以外の部署で過ごした年数の方がいつの間にか長くなっていました。このたび現場に戻り、「はじめて」の利用者や職員のやさしさ、笑顔に直接触れることができるうれしさを日々感じます。

利用する人にも働く人にも、一人ひとりにとって大切な居場所をより良くできればと思います。自分なりにではありますが、これまで得てきた経験や知識をどのように役立てることができるかを考えながら、今日も早起きして明光ワークスに向かいます。

『記憶がない1年目』『教える立場の2年目』『飛び回る3年目』

すくよか

梅木 愛理(主任 1 年目 入職 3 年目)

この3年目までを振り返って、1年目は覚えることがたくさんあり毎日の仕事が精一杯で、あっと言う間の1年でした。

2年目は、先輩に仕事を教える立場になり、不安ながらも自分が学んだことを整理し、アウトプットしていききました。

そして、3年目は職場を飛びまわっています。

「梅木さん」と呼ばれることが増え、色んな相談や報告を受ける事が多くなりました。

大変なこともあります、やりきった際の達成感も大きいです。

『利用者さんとの時間がより大切に』

地域生活総合支援センターあい

高岡 亜也子(サービス管理責任者 1 年目 入職 6 年目)

サービス管理責任者になると決まった時、不安はありましたが「やるしかない」という気持ちが一番大きかったです。

目の前の利用者さんだけを見ていた昨年と違い、グループホーム全体の利用者さん、そして職員のこと考えながら仕事ができるように頑張っています。

利用者さんと直接関わるような仕事が少なくなりましたが、それでも、空いた時間にホーム周りをしていると利用者さんが私に気づいて手を振ってくれたり、昨年まで関わりの少なかった利用者さんから「高岡さんや!」と笑顔で声をかけてもらえます。

そのことがとても嬉しくて、最近は利用者さんから元気をもらうことが多いです。

『再任用を希望して』

じょぶライフだいせん

田所 克之(令和 4 年 4 月より再任用 入職37年目)

働くということに関して、以前は家族の生活や子育て等のために働くという思いがありましたが、定年が近づくにつれ自分たち夫婦や自分の親の生活(介護等)のために働くという思いが出てきました。そのような時に再任用のお話をいただき、“まだ働ける”と自分は恵まれていることに感謝しました。

幸い仕事内容は大きく変わることはありませんでしたが、今までと違う事業所での勤務になるのでこの年で業務がこなせるのか周りの方々は心配になったかもしれません。

自分と一回りも二回りも違う同僚に助けられながら自分が今まで経験してきた知識や技術を少しでも伝えていければと日々を“楽しく”過ごしています。

新婚旅行で見たオーロラをまた観に行けることを夢みて働き続けたいと思います。

安否確認システム(ANPiS)を導入しました

私たちは、地震や津波、台風といった多くの自然災害の危険と隣り合わせで暮らしています。いつ、どこで起こるか分からない災害に対して私たちにできることは、万が一を想定し、常日頃から備えておくことです。そのような災害発生時の職員との連絡手段として「ANPiS」を導入しました。

「ANPiS」とは、職員に対して一斉に安否確認メールを配信し、職員からの応答を自動で集約できるシステムです。連絡網に沿って電話で情報を伝える事も重要ですが、まず一斉送信されたメールで職員一人ひとりの被害状況を確認し、職場に来ることができるか、またそれにどの程度の時間を要するか等を把握することで、素早く初動体制を整えることができます。導入後は、使用訓練を毎月行っており、応答状況の改善を続けてきました。その結果、5月の使用訓練では正規職員全員が登録を終え、安否確認メールに対する応答率が概ね100%を達成することができました。利用者の生命と生活を守る使命を全うするため、予測できない自然災害が発生した後のことを予測し、これからも対策に努めていきたいと思います。



令和3年度決算報告

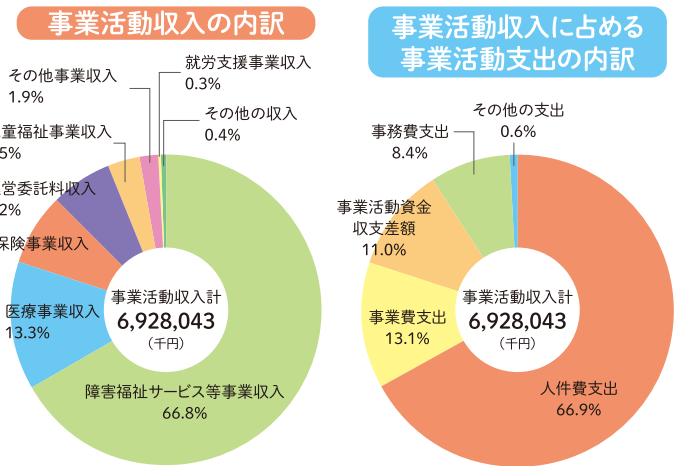
令和3年度の減価償却後の⑤当期資金収支差額合計(経常活動分)は約1億8千7百万余円となりました。

全ての事業所が減価償却に必要な積立を行ったうえで黒字となり、概ね安定した運営ができています。

令和4年2月から国の「福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金」等を活用し職員の基本給を約3%ベースアップしました。

また、福祉・介護職員処遇改善加算収入及び収支差額を財源とした賞与加算引当資産を取崩し、通常の夏季一時金に加算して職員に支給することができました。

加算の額は職種やキャリア等により差はありますが、正規職員で平均的に15万円と昨年から1万5千円アップしました。長いコロナ禍の中で感染対策に緊張感を持ちつつ、平常時と変わらぬ職務に従事する職員への労いになればと考えています。今後も経営基盤の安定化を図りつつ職員処遇の向上に努めてまいります。



【令和3年度 資金収支計算書】 (単位:千円)

勘定科目		法人合計	／(A)
事業活動による収支	収		
	障害福祉サービス等事業収入	4,627,147	66.8
	医療事業収入	920,106	13.3
	介護保険事業収入	526,429	7.6
	運営委託料収入	428,404	6.2
	児童福祉事業収入	241,230	3.5
	その他事業収入	134,986	1.9
	就労支援事業収入	24,059	0.3
	その他の収入	25,682	0.4
	事業活動収入計(A)	6,928,043	100.0
支	人件費支出	4,634,413	66.9
	事業費支出	910,217	13.1
	事務費支出	580,821	8.4
	その他の支出	44,735	0.6
	事業活動支出計(B)	6,170,186	89.0
①事業活動資金収支差額(A)-(B)		757,857	11.0
施設整備等収入計		1,108	
施設整備等支出計		320,012	
②施設整備等資金収支差額		△318,904	
その他の活動収入計		436,547	
その他の活動支出計		1,039,065	
うち夏季一時金の財源として		(142,857)	※1
うち⑥支払資金残高からの積立として		(208,129)	※2
③その他の活動資金収支差額		△602,518	
④当期資金収支差額合計		△163,565	①+②+③
夏季一時金への拠出		142,857	※1の再掲
積立資産への拠出		208,129	※2の再掲
⑤当期資金収支差額合計(経常活動分)		187,421	④+※1+※2
⑥前期末支払資金残高		1,769,276	
⑦当期末支払資金残高		1,605,711	④+⑥

進化するSFJのITネットワークシステム

当事業団では、平成15年頃から法人全体をネットワークシステムでつなぎ、グループウェアの導入をはじめ、ファイルサーバや会計、人事給与、勤怠管理、利用者生活支援、給付費請求等の各種業務システムを駆使して、業務の効率化と職員間のコミュニケーションの円滑化を図ってきました。

ネットワーク及びサーバ機器のリース契約が満了する時期に合わせて、令和3年10月にネットワーク環境等の再構築を行いました。特定デスク等だけでなく支援現場でも事務作業ができるよう、無線LANネットワークを導入しました。もちろんセキュリティ面を考慮し電子証明書での認証を採用し、電子証明書がないパソコンは接続できなくすることで、パスワード運用よりも強固な仕組みにしています。また、通信の集中を緩和させるために、インターネットブレイクアウトの仕組みを導入しました。これは今までインターネットへの通信は全てサーバ室のファイアウォールを通じて行っていたものを、通信の内容によってはサーバ室のファイアウォールを経由せず各拠点からダイレクトにインターネットに接続することにより通信速度の向上を図る仕組みです。次に更なるICT化推進を図るため、最新の仮想化技術であるハイパーコンバージドインフラ(HCI)をサーバに採用しました。HCIにより自宅等からインターネット回線を通じて安全に法人のシステムにログインできる仮想デスクトップシステムも新たに導入し、感染症発生時等もしもの際にはリモートワークでどこにいても事務業務が遂行できる環境を構築しました。



情報技術が進歩することにより、より安全かつ効率的に様々なことができるようになってきました。支援現場において「人と人」の関わりが大切なことに変わりはありませんが、テクノロジーを最大限活用し、時代に応じて働き方を変化させていくことが大切と考えます。これからも様々な環境変化に対応し、SFJのITネットワークシステムは進化し続けます。

3Tier 構成から HCI 構成へ

